

2019年度スポーツ庁委託事業  
学校における体育活動での事故防止対策推進事業

# 「体育活動中における 球技での事故の傾向及び事故防止対策」

## 調査研究報告書



## 事業趣旨

本委託事業は、体育活動中に発生した事故による死亡等の重大な災害について、同様の事故が生じないよう、その発生原因・背景、防止のための留意点を把握し、それらを関係者間で共有し、効果的かつ安全な体育活動の実現に向けた取組を行うものである。

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下、「JSC」）災害共済給付の実施によって得られる災害事例及び統計データによると、近年、高等学校の医療費給付金額が増加傾向であり、その中で特に体育活動中のバスケットボール、サッカー、バレーボール等の身体接触の多い球技種目での事故が増加している。

そこで今年度は、学校での体育活動中における球技での事故の傾向及び事故防止対策ワーキンググループを設置し、重大事故を未然に防ぐための方策をまとめることとした。

なお、高等学校と同様、中学校でも体育活動中の災害発生件数は多く、事故防止の観点において共通する点が多いことから、中学校と高等学校をまとめた形での調査分析を行った。

### 【調査対象】

種目： バスケットボール、サッカー・フットサル、バレーボール、野球（含軟式）、ラグビー

校種： 中学校、高等学校

場合： 体育授業、運動部活動、体育的行事（運動会・体育祭・球技大会等）

### ワーキンググループメンバー

◎ワーキンググループ長（五十音順・敬称略）

氏名	所属先・役職	専門
金岡 恒治	公益財団法人日本水泳連盟 理事・医事委員会 委員長 (早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)	整形外科・水泳
北野 孝一	公益財団法人日本サッカー協会技術委員会指導者養成部会 (金沢市立浅野川小学校 教諭)	サッカー
佐藤 浩	東京都中学校体育連盟 理事長 (新宿区立新宿西戸山中学校 校長)	体育
菅原 芳雄	公益財団法人日本中学校体育連盟 バスケットボール競技部長 (江戸川区立東葛西中学校 教諭)	バスケットボール
田名部 和裕	公益財団法人日本高等学校野球連盟 理事	野球
◎戸田 芳雄	学校安全教育研究所 代表 (明海大学 客員教授)	安全教育
西田 佳史	東京工業大学工学院機械系 教授	傷害予防
堀越 由高	公益財団法人全国高等学校体育連盟バレーボール専門部 副部長 (東京都立蔵前工業高等学校 教諭)	バレーボール
溝内 健介	清水法律事務所 弁護士	弁護士
渡辺 一郎	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 理事 (東京都市大学共通教育部 教授)	ラグビー

### 協力者（スポーツ事故防止対策協議会委員）

氏名	所属先・役職	専門
上野 俊明	東京医科歯科大学大学院准教授	歯科
枝川 宏	えだがわ眼科クリニック院長	眼科

# 目次

第1編 体育活動中(体育の授業、運動部活動、体育的行事等)の事故の実態 .....	1
第2編 球技種目別事故の傾向、事例及び事故防止の留意点	
I. バスケットボール .....	3
II. サッカー・フットサル .....	6
III. バレーボール .....	9
IV. 野球(含軟式) .....	12
V. ラグビー .....	15
第3編 専門的見地からの留意点	
I. データ分析から見た観点 .....	18
II. 医学的観点(歯科) .....	20
III. 医学的観点(整形外科) .....	22
IV. 医学的観点(眼科) .....	23
V. 法律的観点 .....	26
VI. 学校管理の観点 .....	28
本報告書の活用と球技の事故防止に向けて .....	30
資料	
・ 学校の管理下の災害[令和元年版] .....	32
・ 学校事故防止チラシ「知って、防ごう!学校事故」 .....	33

# 第1編 体育活動中（体育の授業、運動部活動、体育的行事等）の事故の実態

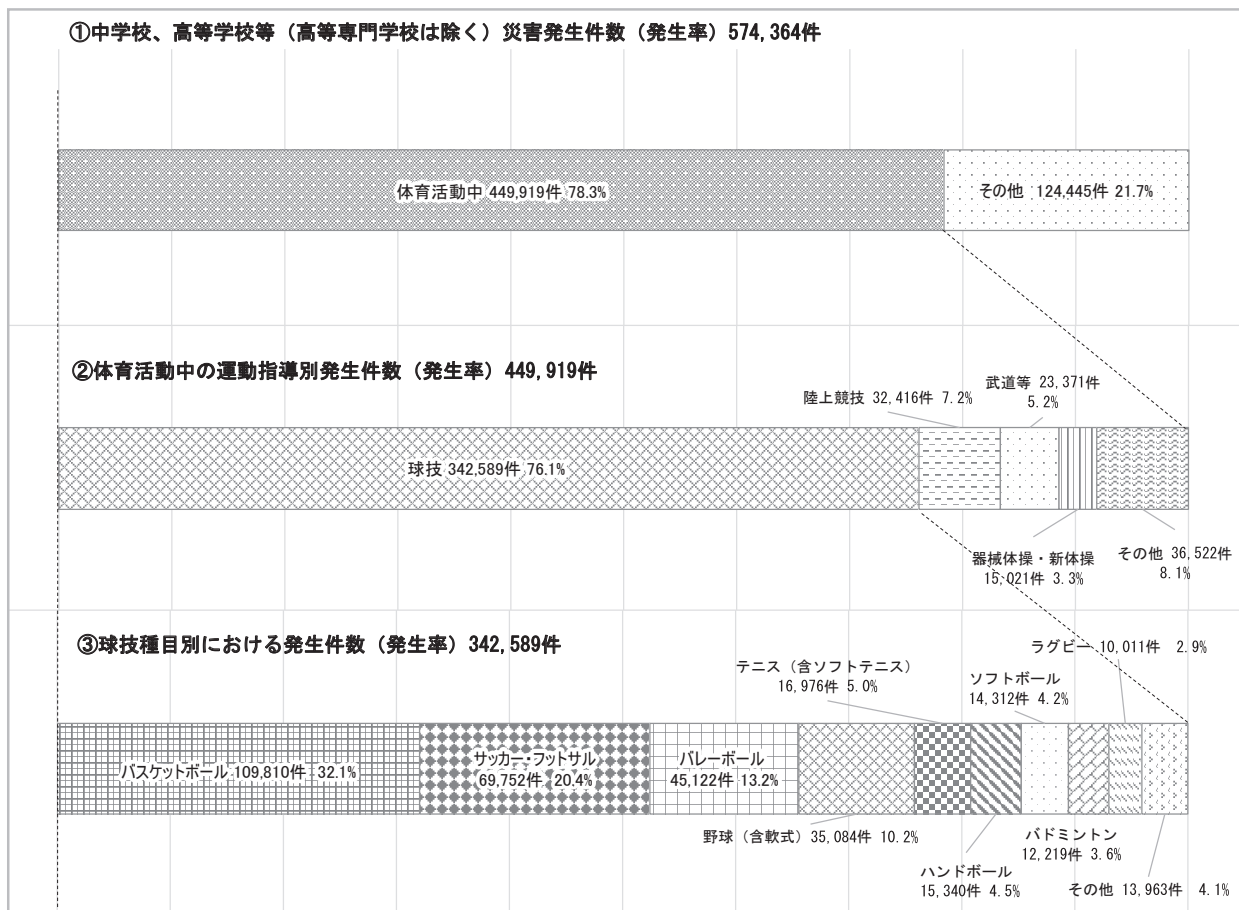


図1-1 平成30年度に医療費を支給した災害発生件数（発生率）

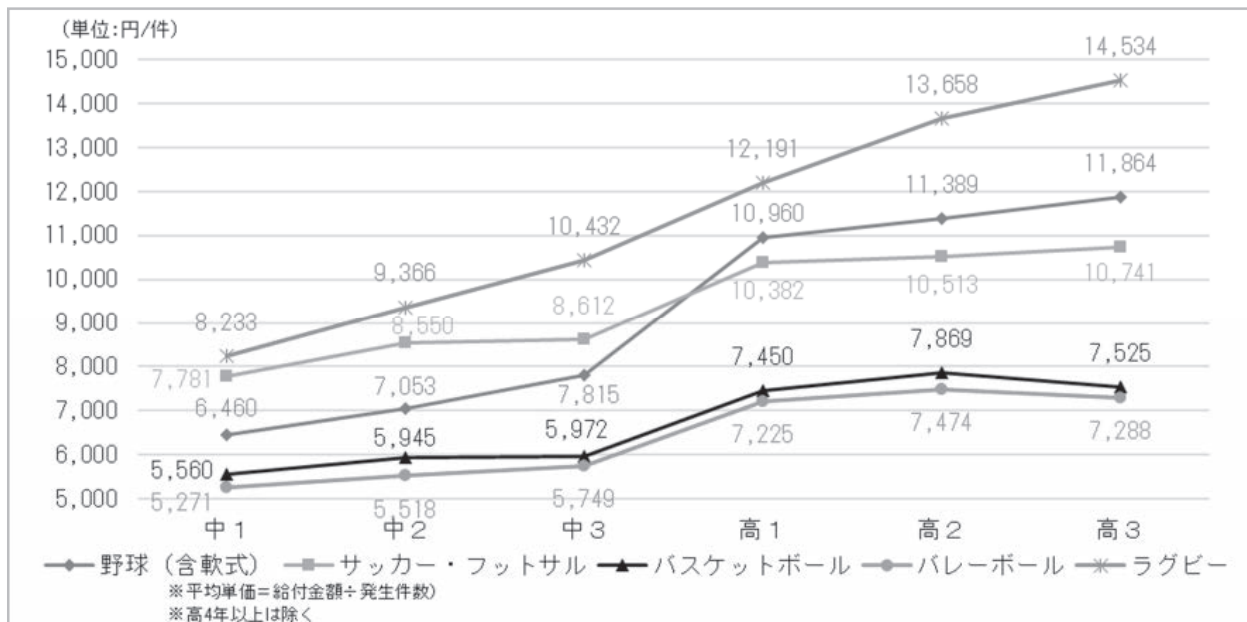


図1-2 学年別・医療費給付金額の平均単価（平成26年度～平成30年度の5年間）

## 事故の実態

前ページの図 1-1 は、平成 30 年度に中学校および高等学校等において、学校の管理下で発生し、災害共済給付制度を通じてデータ収集された事故を分析したものである。この図は、発生件数のうち体育活動中が 78%、そのうち球技が 76% を占めており、発生の多い球技種目の内訳では、バスケットボール、サッカー・フットサル、バレーボールの順に発生件数が多いことを示している。

また、重症度に関連する指標として、平均治療費に着目して分析したものが前ページの図 1-2 である。この図は、球技（5 種目）の中で発生した事故と平均治療費の関係を示したものである。これによると、すべての学年において、ラグビーの給付金額の平均単価が一番高くなっていること、また、すべての競技において、学年が進行するほど平均単価が高くなる傾向があることなどが分かる。

上述のものは、災害共済給付制度によって収集された負傷・疾病の発生状況のデータの分析によるものであるが、何らかの後遺障害が残存した重症事例に関しては、学校の管理下で 10 年間（平成 21 年度～平成 30 年度）に発生し、障害見舞金（第 1 級～第 14 級）を支給した 1,474 例を分析することで具体的な状況を知ることができる。下の表 1-1 は、各競技と障害発生状況の関係を整理したものである。全競技の中で、多いのは、「ボール等当たる」「他者との接触」「転倒・落下」「走る・跳ぶ等」「バット等当たる」である。競技によって発生状況に特徴があり、「ボール等当たる」は、野球（ソフトボール）、サッカーなどで多発しており、野球が突出している。また、「他者との接触」は、バスケットボール、サッカー、ラグビーで多発している。

これらの事故発生状況から、球技では、1) ボール・バット・設備などの用具・環境に関連して発生している事故、2) 肘・膝が当たるなどの他者との接触に関連して発生している事故などに大別され、これらの事故予防は、段階的な練習や危険な行為に関する啓発、練習方法における用具使用方法の見直し、用具の定期点検、トレーニング法の改善、マウスピースやアイガードのような予防に効果のある用具の推奨など、様々な方法が考えられる。

本報告書では、事故発生の多い球技に着目し、発生頻度、重症度の観点からバスケットボール、サッカー・フットサル、バレーボール、野球（含軟式）、ラグビーの 5 種目を取り上げる。第 2 編では、各競技において、事故を予防するための具体的な留意点を、第 3 編では、これらの競技に共通する留意点を、データ分析から見た観点、医学的観点（歯科、整形外科、眼科）、法律的観点、学校管理の観点から述べる。

表 1-1 競技別・原因別 障害事故の傾向（中・高：平成 21 年度～平成 30 年度の累計） (件)

	ボール等 当たる	他者と 接触	転倒・ 落下	バット等 当たる	施設・ 設備と 接触	走る・ 跳ぶ等	投げられ・ 打たれる等	回転に 失敗	プール 飛び込み	自分の 膝等が 接触	泳ぐ	その他	合計
野球	363	18	6	27	17	12	0	0	0	0	0	4	447
サッカー	89	60	26	0	10	15	0	0	0	1	0	1	202
バスケットボール	18	69	13	0	14	8	1	0	0	0	0	6	129
ソフトボール	44	9	1	32	1	2	0	0	0	0	0	0	89
器械体操等	0	3	30	0	3	3	0	30	0	3	0	2	74
陸上	6	3	18	2	6	32	0	0	0	1	0	3	71
バレーボール	13	11	11	2	15	7	0	0	0	0	0	3	62
バドミントン	29	0	6	9	2	2	0	0	0	0	0	0	48
ラグビー	2	37	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	44
テニス	8	2	9	5	9	5	0	0	0	0	0	2	40
柔道	0	6	3	0	1	0	29	0	0	0	0	0	39
水泳	0	0	1	0	1	1	0	0	23	0	7	1	34
その他	21	38	60	24	14	17	6	4	0	0	0	11	195
合計	593	256	185	102	94	105	36	34	23	5	7	34	1,474